

米国ユタ州のスタートアップ企業である Nikola Motor Company (以下 NMC) は、2016 年 12 月 1 日に初の製品である、水素燃料電池駆動のセミトレーラー・トラック「Nikola One」の発表会をおこなった。この時点までに、7,300 件のプレオーダーを受注しており、36 ヶ月以内 (2019 年末まで) に生産することを発表している。

その後、2016 年 12 月から 2017 年 8 月までの NMC の動向を整理する。

#### 【FC トレーラー Nikola One の近況】

●室内空間が小さめのセミトレーラー Nikola Two を発表 (2016 年 12 月, 公式発表)

Nikora One は、室内に居住空間を十分に備えた Sleeper Cab と呼ばれる大型トレーラーであった。これに対し、Nikora Two という Day Cab (日本で一般的なトレーラー) を発表し、Nikora One と同条件でプレオーダーを開始した。成約件数は不明。

●プレオーダーは 8000 件に到達 (2016 年 12 月, 公式発表)

プレオーダーは、1500 米ドル (約 16 万円) で、100%返金可能であるとしている。この条件のもと、Nikora One には 8000 件のプレオーダーが入っているとしている。

●受注を停止中 (2017 年 6 月, Trucks.com インタビュー)

注文や問い合わせが殺到しているため、現在は一旦受注を停止している。ただし、口頭契約レベルではあるが、2.5 万台相当の受注待ちがあるとされている。

●初期ロットの製造業者が決定 (2016 年 12 月, 公式発表)

Nikora One の最初の 5000 台は、FITZGERALD という北米随一の改造トラック製造業者により製造される。2020 年 10 月まで限定的に稼働する予定。製造ラインは 150 万平方フィート (約 14 万平米、約 4.2 万坪、東京ドーム 3 個相当) 規模で、ロボットによる自動化がなされる。この工場は、2017 年 8 月末頃までに公開される予定であるとした (現在まで続報なし)。

●販売・整備・保証体制が決定 (2017 年 4 月, 公式発表)

販売およびその後の整備は、Ryder System と Thompson Caterpillar の 2 社により提供されることが決定した。Ryder は米国本土 50 州すべてと、カナダ、メキシコでサービスを展開している。Thompson はミシシッピとテネシーにサービスを展開している。この 2 社との協業により、800 以上のサービス・販売拠点が北米に確保された。

●水素ステーションが稼働開始の見込み (2017 年 6 月, Trucks.com インタビュー)

376 ヶ所の設置が計画されている水素ステーションのうち、最初の 8 ヶ所が今後 2 ヶ月間 (2017 年 8 月末まで) に予定されている (現在まで続報なし)。

容量について、それぞれのステーションが「1 日あたり 12,500kg を供給」する世界最大級のものになる、としている。ちなみに我が国の中規模商用水素ステーションは充填能力が約 300Nm<sup>3</sup>/h のものが多く、これを kg、1 日あたりに換算すると、約 80,000kg になる (1Nm<sup>3</sup>の水素は 11.127kg で、24 時間 300Nm<sup>3</sup>/h で連続供給を想定) ため、技術的には容易に製造できるステーションであると考えられる。

●今後の計画（2017年4月、公式発表）

2018年10月までに

初期ロットの車両について、公道試験を行う。現在は、シャシーの軽量化やサイズ変更などに取り組んでいる。このときまでに、水素ステーションの具体的な開発工程を明らかにする。

2018年10月～2021年10月

過酷環境テストを3年間分行う。具体的には、極寒冷地と極猛暑地での運用試験であり、米国の規制対応に必要なものである。

2020年10月～2021年12月

Fitzgeraldとともに、初期ロット5000台分の製造を行う。

●内装デザインを公開（2017年8月、Autoblog.com 取材）

2016年12月に発表されたのは、外観のみであった。2017年8月、初めてNikola Oneの内装デザインが公開された。「いい意味で近未来的で、商業トラックの内装デザインの大幅な進化を感じさせる。」と評されている。



以上